

## 太尾町関係資料

### ●面積

1. 846 km<sup>2</sup> (= 558,400 坪)

\* 横浜市住居表示整備要綱による町の大きさの基準（住宅地域）は、132,000～165,000 m<sup>2</sup> (= 40,000～50,000 坪)。太尾町は、その11～14倍。

### ●人口、世帯数

人口 23,423  $\left( \begin{array}{l} \text{男} \quad 11,611 \\ \text{女} \quad 11,812 \end{array} \right)$

世帯数 11,023 (住民基本台帳人口、平成18年7月31日現在)

### ●沿革

	<small>たちばな</small> 橘樹郡 太尾村	
明治22年3月31日	橘樹郡 大綱村 大字太尾	大豆戸村、篠原村、菊名村、樽村、大曾根村、太尾村、南綱嶋村、北綱嶋村が合併して大綱村となる。 (翌4月1日、市町村制施行)
昭和2年4月1日	横浜市 太尾町	横浜市編入
昭和2年10月1日	横浜市 神奈川区 太尾町	区制施行
昭和14年4月1日	横浜市 港北区 太尾町	港北区新設

### ●町名の由来

太尾とは、現在の太尾町から大曾根町\*1にかけて存在する丘陵に因む地名かと思われる。

フトとは、「立派・壮大等の意で、物の形状に関して用いる（『時代別国語辞典—上代編』）」語であり、尾は峰あるいは丘陵を示す言語。この考えが正しいとするとフトオとオオソネ（大曾根）とは同義であり、丘陵の両側から別の名称をつけているが地名命名の対象となった物は同じであった可能性がある\*2。鶴見川が大曲の地でほぼ90度東に流れの方向を変え、その原因がこの丘陵の南東から北西に長く鶴見川の大曲へ向かって突き出しているという丘陵の両側を明確に二分する地形環境があったことが、全く異なった二つの名称を一つの丘陵が得た理由となる。

(『横浜の町名』横浜市市民局、昭和57年)

\*1 大曾根町は、現在は大曾根一丁目～三丁目、大曾根台。

\*2 大曾根のソネとは、松尾俊郎によると自然堤防を表す地名（『日本の地名』）であり、その場合、大曾根の地は鶴見川の南岸にあり状況としては符合するが、ソネには他に「長い嶺続き」の地形を言う場合もあり、鶴見方面から延びた丘陵が鶴見川につき当たる迄長くあり、この丘陵の北側に大曾根村の集落が形成されたところから丘陵を意味するソネから来ているとの考えもある。  
(『横浜の町名』、大曾根町の項)

### ●昔の記録

……古くより村内を三つに分て 私に上中下をもて称せり、江戸日本橋より行程七里（約27km）許、家数 上は十三軒 中は十六軒 下は三十七軒あり、……東西十五丁（約1.6km）南北五丁（約550m）余、地形 北の方は山にて 南の方は平かなり、田畑相半し 水旱共に患あり、……  
(『新編武蔵風土記稿』～『港北区史』より)